

受験番号

◎ 指示があるまで開かないこと。

平成 30 年 2 月 15 日 午前用

第 69 回 獣 医 師 国 家 試 験 実 地 試 験 問 題 (C)

注 意 事 項

1. 問題数は 60 問であり、解答時間は 2 時間である。
2. 解答方法は次のとおりである。

〔1〕 各問題には 5 つの選択肢があるので、そのうち質問に適した答えを 1 つだけ選び、次の例にならって答案用紙にマークすること。なお、1 問につき 2 つ以上マークした場合には、そのうちの 1 つが正答であっても誤りとして取り扱われる。

(例) 問61 我が国で獣医師国家試験事務を受けもっている省はどれか。

1. 厚生労働省
2. 文部科学省
3. 農林水産省
4. 外務省
5. 国土交通省

正答は「3」であるから、答案用紙の

61 E 1 ☐ E 2 ☐ E 3 ☑ E 4 ☐ E 5 ☐のうち E 3 ☑を横線で、
61 E 1 ☐ E 2 ☐ ~~E 3 ☑~~ E 4 ☐ E 5 ☐とマークすれば良い。

〔2〕 答案用紙のマークには、必ず HB の鉛筆を使用し、次の良い例のとおり、塗りつぶさずに線を引くこと。

良い例…… 悪い例……   

〔3〕 答えを修正する場合は、必ずプラスチック製の消しゴムで完全に消し、消し跡や消しクズが残らないようにすること。消し方が悪いと採点されないの
で注意すること。

〔4〕 答案用紙は、折り曲げたり、メモやチェックなどで汚したりしないよう特
に注意すること。

問1 犬、ラブラドル・レトリバー、避妊雌、9歳齢。発咳を主訴に来院。〔図1 - A, B〕は胸部X線像（A：側方像、B：腹背像）である。この画像所見から最も疑われる疾患・病態はどれか。

1. 悪性腫瘍の肺転移
2. 原発性肺腺癌
3. 胸腺腫
4. 縦隔気腫
5. 肥満細胞腫

別冊 C
図 1 - A, B

問2 〔図2〕はセレウス菌食中毒の特徴を示したものである。（ア）～（オ）に当てはまる語句として適当なのはどれか。

- a (ア)：食品内毒素型
- b (イ)：生体内毒素型
- c (ウ)：易熱性
- d (エ)：酸・アルカリに強い
- e (オ)：魚介類

1. a, b
2. a, e
3. b, c
4. c, d
5. d, e

別冊 C
図 2

問3 〔図3〕の構造のゲノムをもつDNAウイルス科はどれか。

1. サークウイルス科
2. ヘルペスウイルス科
3. ポリオーマウイルス科
4. ポックスウイルス科
5. アデノウイルス科

別冊 C

図 3

問4 犬、バーニーズ・マウンテン・ドッグ、去勢雄、9歳齢。1か月前からの摂食困難を主訴に来院。〔図4-A〕は口腔内の肉眼像、〔図4-B〕は口腔内腫瘍の細針吸引細胞診像（ギムザ染色、×400）である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 扁平上皮癌
2. リンパ腫
3. 悪性黒色腫
4. 肥満細胞腫
5. 線維肉腫

別冊 C

図 4-A, B

問5 牛、交雑種、雌、4か月齢。〔図5 - A, B〕に示す外貌で食欲不振を呈した。
本症例で最も疑われる疾患の原因として適当なのはどれか。

- a 食道梗塞
- b ビタミンA欠乏
- c 皮膚型牛白血病
- d 心筋症
- e 濃厚飼料への急変や過給

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

別冊 C
図 5 - A, B

問6 〔図6 - A〕は若齢ウサギの肝臓の肉眼像、〔図6 - B, C〕は病変部の病理組織像（HE染色）である。本疾患の原因として最も疑われる寄生虫はどれか。

- 1. *Entamoeba histolytica*
- 2. *Giardia intestinalis*
- 3. *Eimeria stiedai* (*Eimeria stiedae*)
- 4. *Toxoplasma gondii*
- 5. *Capillaria hepatica*

別冊 C
図 6 - A, B, C

問7 犬、グレート・ピレニーズ、雄、13歳齢。数週間前から左後肢を時々挙上するようになり、その後突然同肢を着地しなくなったとの主訴で来院。〔図7-A, B〕は左後肢X線像（A：側方像、B：頭尾像）である。次に行う検査・処置として適当なのはどれか。

1. 副子固定
2. 創外固定による骨折の整復
3. 骨プレートによる内固定
4. 髄内ピンによる内固定
5. 骨折部の生検

別冊 C
図 7-A, B

問8 〔図8〕は、放牧家畜が摂取すると嘔吐や麻痺などの中毒の原因となる植物の写真である。この植物はどれか。

1. アセビ
2. イチイ
3. オトギリソウ
4. トリカブト
5. ユズリハ

別冊 C
図 8

問9 食肉用に捕獲されたイノシシの糞便を検査したところ、〔図9 - A〕の虫卵が検出された。その後、イノシシを安楽死させ、胃を切開したところ、〔図9 - B〕の寄生虫が検出された。この寄生虫はどれか。

1. 類円豚胃虫 (*Ascarops strongylina*)
2. 大鉤頭虫 (*Macracanthorhynchus hirudinaceus*)
3. 豚糞線虫 (*Strongyloides ransomi*)
4. ドロレス顎口虫 (*Gnathostoma doloresi*)
5. 旋毛虫 (*Trichinella spiralis*)

別冊 C
図 9 - A, B

問10 犬、ジャーマン・シェパード、雄、8か月齢。右前肢の跛行がおさまった後に、左前肢を跛行するようになったとの主訴で来院。〔図10 - A, B〕は初診時の左前肢のX線側方像 (A：上腕骨部、B：橈尺骨部) である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 肘突起癒合不全
2. 肥大性骨異栄養症
3. 肥大性骨症
4. 成長板早期閉鎖
5. 汎骨炎

別冊 C
図 10 - A, B

問11 〔図 11〕の方法を用いて豚の耳介で検査を行う疾患はどれか。

1. オーエスキー病
2. 豚抗酸菌症
3. 豚丹毒
4. 滲出性皮膚炎
5. トキソプラズマ病

別冊 C
図 11

問12 〔図 12〕は僧帽弁閉鎖不全症の犬の心エコー図右側傍胸骨長軸像である。*の部位はどれか。

1. 大動脈
2. 右心房
3. 右心室
4. 左心房
5. 左心室

別冊 C
図 12

問13 〔図 13〕は帝王切開で摘出された胎子である。最も適切な診断名はどれか。

1. 関節弯曲症
2. 中腎管の部分的形成不全
3. 胎子浸漬
4. 水頭症
5. 反転性裂体

別冊 C

図 13

問14 病原体が〔図 14〕の感染様式をもつ人獣共通感染症はどれか。

1. パスツレラ症
2. ヒストプラズマ症
3. 猫ひっかき病
4. トキソプラズマ症
5. Q 熱

別冊 C

図 14

問15 猫、雑種、去勢雄、9歳齢。元気と食欲の低下を主訴に来院。〔図15 - A〕は腹部X線腹背像、〔図15 - B, C〕は腎臓の超音波検査像（B：右腎臓、C：左腎臓）である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 多発性嚢胞腎
2. 腎盂腎炎
3. 腎リンパ腫
4. 腎周囲偽嚢胞
5. 腎異形成

別冊 C
図 15 - A, B, C

問16 マウスの肝臓の壊死病巣のスメアを DHL 寒天培地に接種し培養したところ、〔図16〕のようなコロニーが生じた。この病原体はどれか。

1. *Bordetella bronchiseptica*
2. *Yersinia pseudotuberculosis*
3. *Mycoplasma pulmonis*
4. *Pasteurella pneumotropica*
5. *Salmonella* Typhimurium

別冊 C
図 16

問17 馬、サラブレッド種、雄、4歳齢。競馬で出走後、右前肢に支柱跛行を認めた。〔図17〕は中手指節関節部X線背外側－掌内側斜位像である。骨折部位はどれか。

1. 第4中手骨
2. 第3中手骨
3. 近位種子骨
4. 遠位種子骨
5. 基節骨

別冊 C
図 17

問18 酪農場において衛生管理区域を設定したい。〔図18〕の破線で示した区域ア～オのうち、最も適切と考えられる設定はどれか。

1. 区域ア
2. 区域イ
3. 区域ウ
4. 区域エ
5. 区域オ

別冊 C
図 18

問19 牛、ホルスタイン種、雌、4歳齢。〔図19〕は腹腔内の腫瘍の病理組織像（HE染色）である。この腫瘍に関する記述として正しいのはどれか。

- a 胚細胞に由来する。
- b 性ホルモン産生が認められることがある。
- c 顆粒膜細胞に由来する。
- d 悪性であっても腹腔内播種をすることはない。
- e ヨースト・デーゲン小体を形成する。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

別冊 C 図 19

問20 犬、ミニチュア・ダックスフンド、去勢雄、3歳齢。耳を痒がるとの主訴で来院。〔図20〕は耳垢スワブのギムザ染色像（×1,000）である。原因疾患として最も疑われるのはどれか。

- 1. 緑膿菌感染症
- 2. ミミヒゼンダニ感染症
- 3. 天疱瘡
- 4. マラセチア感染症
- 5. 耳垢腺癌

別冊 C 図 20

問21 〔図 21 - A〕は輸送直後に急死した牛の脳の肉眼像、〔図 21 - B〕は同組織の病理組織像（HE 染色）である。原因として最も疑われる病原体はどれか。

1. *Salmonella* Dublin
2. *Escherichia coli*
3. *Pasteurella multocida*
4. *Fusobacterium necrophorum*
5. *Histophilus somni*

別冊 C
図 21 - A, B

問22 犬、ポメラニアン、雌、12 歳齢。2 か月前からの頸部痛と右前後肢の跛行を主訴に来院。神経学的検査で右前肢に下位運動ニューロン徴候が認められたが、右前後肢の筋萎縮を除いて、整形外科学的検査では四肢に異常は認められなかった。〔図 22 - A, B〕はそれぞれ第 5-6 頸椎間、第 6 頸椎レベルにおける造影 T1 強調 MRI 横断像、〔図 22 - C〕は病変部の細針吸引細胞診像（ギムザ染色、× 400）である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 髄膜腫
2. リンパ腫
3. 悪性末梢神経鞘腫
4. 骨肉腫
5. 組織球性肉腫

別冊 C
図 22 - A, B, C

問23 食中毒の原因食品から〔図 23〕に示す病原体が検出された。本食中毒に関する記述として正しいのはどれか。

- a 馬肉の生食により起こることが多い。
- b 発症した場合の症状は重篤で回復に長期を要する。
- c 夏季に発生することが多い。
- d ヒラメの刺身の喫食を原因とする事例が多い。
- e 潜伏期間は2週間以上である。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

別冊 C

図 23

問24 犬、ボーダー・コリー、避妊雌、3歳齢。多飲多尿を主訴に来院。全血球数算定、血液化学検査、尿検査（尿比重を除く）、胸部および腹部X線検査、腹部超音波検査、低用量デキサメサゾン抑制試験のいずれにも明らかな異常はみられず、水制限試験を実施した。〔図 24〕は水制限試験における尿比重の経過である。体重が5%減少した時点でバソプレッシン製剤を投与している（矢印）。本症例で最も疑われる疾患に関する記述として適切なのはどれか。

- a 腎臓における水再吸収が低下している。
- b 外傷性に生じることがある。
- c 血漿浸透圧は著しく低下する。
- d 水を充分に与えても適切な治療を行わないと多くの場合死に至る。
- e 治療にはサイアザイド系の利尿薬を用いる。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

別冊 C

図 24

問25 牛、ホルスタイン種、雌、7か月齢。両目失明、運動失調を呈した。〔図25 - A〕は大脳半球前額断の肉眼像、〔図25 - B〕は大脳半球前額断スライス紫外線照射像、〔図25 - C〕は大脳半球の一部の病理組織像（HE染色）である。最も疑われる疾患はどれか。

1. GM₁ ガングリオシドーシス
2. セロイド・リポフスチン沈着症
3. ビタミンB₁ 欠乏症
4. ビタミンE 欠乏症
5. 銅欠乏症

別冊 C
図 25 - A, B, C

問26 〔図26 - A〕は分娩170日後にとさつされた6歳齢ホルスタイン種牛の右卵巢肉眼像、〔図26 - B〕はその剖面肉眼像である。左卵巢には直径8 mm以下の卵胞の他に特徴的な構造物を認めなかった。本症例はこの2週間前の超音波検査にて右卵巢に直径40 mmの卵胞を、左卵巢に直径8 mm以下の卵胞のみを観察しており、その後には排卵した形跡を認めなかった。とさつ時における診断名として適当なのはどれか。

1. 卵胞嚢腫
2. 黄体嚢腫
3. 顆粒膜細胞腫
4. 黄体遺残
5. 嚢腫様黄体

別冊 C
図 26 - A, B

問27 牛、黒毛和種、雄、4か月齢。〔図27〕は頭部の外貌である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 皮膚糸状菌症
2. カンジダ症
3. マラセチア皮膚炎
4. クリプトコックス症
5. スポロトリコーシス

別冊 C
図 27

問28 犬、ウィペット、避妊雌、12歳齢。食欲廃絶、発咳、努力性呼吸を主訴に来院。〔図28 - A, B〕は胸部X線像（A：側方像、B：腹背像）である。画像所見として適当なのはどれか。

1. 気胸
2. 胸水貯留
3. 肺気腫
4. 縦隔気腫
5. 食道拡張

別冊 C
図 28 - A, B

問29 犬、チワワ、未去勢雄、9歳齢。左膝外側部の皮膚腫瘍が2か月前から急に大きくなってきたとのことで来院。〔図29 - A〕は腫瘍の肉眼像、〔図29 - B〕は腫瘍の細針吸引細胞診像（ギムザ染色、×1,000）である。本疾患に関する記述として正しいのはどれか。

1. 色素産生性の腫瘍である。
2. 外科的切除は適応とならない。
3. 骨浸潤を伴うことが多いため、断脚術が推奨される。
4. 触診により局所の顕著な炎症反応を示すことがある。
5. 診断時に遠隔転移が生じていることが多い。

別冊 C
図 29 - A, B

問30 発育鶏卵を用いて鶏脳脊髄炎ウイルスの検査を行う際、検体の接種部位として適切なのは〔図30〕のア～オのどれか。

1. ア
2. イ
3. ウ
4. エ
5. オ

別冊 C
図 30

問31 〔図 31〕は水中における残留塩素の存在形態と pH の関係を示している。領域「ア」および領域「イ」に当てはまるものの組合せとして正しいのはどれか。

- | | ア | | イ |
|----|-----------------|-------|-----------------|
| 1. | ClO^- | ————— | NHCl_2 |
| 2. | NHCl_2 | ————— | Cl_2 |
| 3. | Cl_2 | ————— | ClO^- |
| 4. | Cl_2 | ————— | NHCl_2 |
| 5. | ClO^- | ————— | Cl_2 |

別冊 C
図 31

問32 犬、雑種、雌、6 か月齢。四肢の肢端が赤く腫れているとの主訴で来院。〔図 32〕は皮膚搔爬検査顕微鏡像（10% KOH 浸漬）である。原因疾患として適当なのはどれか。

1. ノミアアレルギー
2. 疥癬
3. ツメダニ感染症
4. イヌジラミ症
5. 毛包虫症

別冊 C
図 32

問33 犬で〔図 33〕の骨はどれか。

1. 上腕骨
2. 橈骨
3. 尺骨
4. 大腿骨
5. 胫骨

別冊 C
図 33

問34 〔図 34〕はある元素の欠乏症を呈した4週齢の鶏である。最も疑われる元素はどれか。

1. Cl
2. S
3. Zn
4. Mn
5. Se

別冊 C
図 34

問35 犬、雑種、雄、10歳齢。4日前からの食欲不振と嘔吐を主訴に来院。触診で腹腔内に腫瘤が触知された。〔図35〕は同部位の超音波検査像である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 腸重積
2. 腸内異物
3. 巨大結腸症
4. 小腸腫瘍
5. 腸捻転

別冊 C
図 35

問36 犬、トイ・プードル、雌、4歳齢。最近、頸部を痛がるようになり、さらに四肢がふらつくようになってきたとのことで来院。神経学的検査では脳神経検査で異常はなく、前後肢で上位運動ニューロン徴候が認められた。〔図36〕は頸部X線側方像である。最も疑われる疾患・病態はどれか。

1. 頸部椎間板ヘルニア
2. 環椎軸椎不安定症
3. ウォブラー症候群
4. 頸椎骨折
5. 変形性脊椎症

別冊 C
図 36

問37 牛、黒毛和種、雌、7歳齢。〔図37〕は分娩後長期不受胎のために廃用となった時の生殖器である。本疾患に関する記述として適当なのはどれか。

- a 経過の長いものでは尾根部が隆起する。
- b 主に細菌感染により起こる。
- c 子宮は波動感がある。
- d 通常、発情周期は正常に回帰する。
- e 超音波検査では卵巣に無エコー領域が認められる。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

別冊 C

図 37

問38 猫、品種不明、雄、6歳齢。失明、強直性痙攣を呈し、死亡した。〔図38 - A〕は大脳半球の病理組織像（HE染色）、〔図38 - B〕は同組織のPAS染色像である。最も疑われる疾患はどれか。

- 1. アスペルギルス症
- 2. ムコール症
- 3. カンジダ症
- 4. クリプトコックス症
- 5. ヒストプラズマ症

別冊 C

図 38 - A, B

問39 牛、ホルスタイン種、雌、6歳齢。分娩後に食欲不振と水様性下痢を呈し、下顎の浮腫と胸水も認められた。尿は淡黄色透明でpH 6.5、比重1.035、タンパク質が強陽性を示した。〔図39 - A〕は診察時の血液検査結果、〔図39 - B〕は血清蛋白分画像である。下痢の原因として最も疑われる疾患または病態はどれか。

1. サルモネラ症
2. 出血性腸症候群
3. 肝線維症
4. 急性腎不全
5. ネフローゼ症候群

別冊 C
図 39 - A, B

問40 〔図40〕はウイルスの初感染時における血中抗体価の推移の概略図である。「ア」および「イ」の組合せとして正しいのはどれか。

- | | ア | イ |
|----|--------|--------|
| 1. | IgG 抗体 | IgM 抗体 |
| 2. | IgE 抗体 | IgM 抗体 |
| 3. | IgM 抗体 | IgG 抗体 |
| 4. | IgM 抗体 | IgE 抗体 |
| 5. | IgG 抗体 | IgE 抗体 |

別冊 C
図 40

問41 犬、シーズー、避妊雌、12歳齢。左眼上眼瞼の腫瘤を主訴に来院。威嚇反射、対光反射、眼瞼反射、眩目反射などの神経学的検査、涙液量検査、眼圧検査、眼底検査では異常を認めず、スリットランプ検査で左眼上眼瞼に〔図41-A, B〕に示す腫瘤を認めた。最も疑われる疾患に関する記述として適切でないのはどれか。

1. マイボーム腺由来である。
2. 良性腫瘍で予後は良好である。
3. 両眼に発生する場合がある。
4. 腫瘤が増大すると結膜充血、角膜混濁など二次的障害が生じやすい。
5. 外科的切除は適応とならない。

別冊 C
図 41 - A, B

問42 〔図42〕は集団内における疾患の有無を確認するために必要な標本サイズ（信頼度95%）を表したものである。100頭の動物を飼養する農場で、10%の個体が感染すると考えられている感染症の有無を信頼度95%で調べるために検査を行う場合、最低限必要な検査頭数はどれか。

1. 10頭
2. 13頭
3. 14頭
4. 25頭
5. 29頭

別冊 C
図 42

問43 犬、チワワ、雄、3か月齢。間代性痙攣を主訴に来院。〔図43〕は本症例の外貌である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 門脈体循環シャント
2. 脳腫瘍
3. 脳炎
4. 特発性てんかん
5. 水頭症

別冊 C
図 43

問44 〔図44〕のア～オのうち、牛伝染性鼻気管炎ウイルスの形態の模式図として適当なのはどれか。

1. ア
2. イ
3. ウ
4. エ
5. オ

別冊 C
図 44

問45 犬、ラブラドル・レトリバー、雌、4歳齢。ドックランで走っていたところ、急に右後肢を跛行し始めたとのことで来院。触診により膝関節の異常が疑われた。〔図45〕は右膝関節を中心としたX線側方像である。X線画像上で確認できる所見として適当なのはどれか。

- a 膝蓋下脂肪体の変位
- b 滑車溝周囲の骨膜反応
- c 半月板の損傷
- d 前十字靭帯の断裂
- e 胫骨の前方変位

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

別冊 C

図 45

問46 離乳豚が肺炎、下痢および体重減少を呈した。〔図46〕は腫大した腸間膜リンパ節の病理組織像（HE染色）である。最も疑われる疾患はどれか。

- 1. 豚サーコウイルス感染症
- 2. 非定型抗酸菌症
- 3. 結核病
- 4. リンパ腫
- 5. 豚コレラ

別冊 C

図 46

問47 〔図 47〕の方法で検査する試験に関する記述として誤っているのはどれか。

1. フレームシフト型の変異が検出できる。
2. 被験物質と哺乳類の代謝活性化酵素との関連が検討できる。
3. 特定のアミノ酸要求性の細菌株を使用する。
4. 「ア」に実体顕微鏡観察下で無数のコロニーが確認された場合は試験をやり直す。
5. 「イ」では肉眼でみえるコロニー数と被験物質濃度との間に用量反応関係がある。

別冊 C

図 47

問48 馬、サラブレッド種、雄、3歳齢。運動中に異常な呼吸音を発し、失速した。〔図 48〕は鼻孔からの安静時内視鏡検査像である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 気管支炎
2. 鼻出血
3. 副鼻腔炎
4. 反回神経麻痺
5. 気管虚脱

別冊 C

図 48

問49 ある染色体座位に存在するシトシンとアデニンからなる遺伝子配列の反復数が、マウス A 系統では 70 回、B 系統では 100 回であった。〔図 49〕は、この反復配列を挟み込む 1 種類のプライマーセット（プライマーは 20 塩基とする）を用い増幅した PCR 産物のアガロース電気泳動像（矢印は電気泳動の方向を示す）である。A 系統、B 系統、その雑種 F₁ が示す泳動パターンとして適切なのはどれか。

1. ア
2. イ
3. ウ
4. エ
5. オ

別冊 C
図 49

問50 〔図 50〕は妊娠日齢 38 日で流産した動物から排出された胎盤の肉眼像である。この動物種として適当なのはどれか。

1. 豚
2. 山羊
3. 牛
4. 犬
5. 馬

別冊 C
図 50

問51 牛、ホルスタイン種、雌、6歳齢。活力食欲なく、発熱し疝痛症状を認めた。第一胃運動は停止し、糞便の潜血反応が陽性であった。〔図51〕は傍正中切開により開腹手術をした際の病変部位である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 第一胃錯角化症
2. 創傷性第二胃・横隔膜炎
3. 迷走神経性消化不良
4. 穿孔性第四胃潰瘍
5. 出血性腸症候群

別冊 C

図 51

問52 犬、ゴールデン・レトリバー、避妊雌、6歳齢。アレルギー性皮膚炎の治療を継続的に行っていたが、体表（表在）リンパ節の腫大が認められたため来院。〔図52〕は膝窩リンパ節の細針吸引細胞診像（ギムザ染色、×600）である。この所見から最も疑われる疾患・病態はどれか。

1. リンパ腫
2. 細菌性リンパ節炎
3. 反応性リンパ節腫大
4. 髄外造血
5. 肥満細胞腫のリンパ節転移

別冊 C

図 52

問53 〔図 53〕は豚の鼻甲介の切断面である。最も疑われる疾患の原因菌はどれか。

1. *Actinobacillus pleuropneumoniae*
2. *Haemophilus parasuis*
3. *Streptococcus suis*
4. *Staphylococcus hyicus*
5. *Bordetella bronchiseptica*

別冊 C

図 53

問54 犬、フレンチ・ブルドッグ、雄、9歳齢。3か月前から食欲が低下し、最近になって歩行時に転倒するようになったとのことで来院。〔図 54 - A, B〕は頭部 MRI 像（A：造影 T1 強調矢状断像、B：造影 T1 強調横断像）である。画像診断として最も適切なのはどれか。

1. 脳梗塞
2. くも膜嚢胞
3. 下垂体腫瘍
4. 脳膿瘍
5. 壊死性髄膜脳炎

別冊 C

図 54 - A, B

問55 馬、サラブレッド種、雌、2歳齢。10月下旬頃、右眼に羞明感を示した。〔図55〕は右眼部の外貌である。最も疑われる寄生虫はどれか。

1. 指状糸状虫 (*Setaria digitata*)
2. ロデシア眼虫 (*Thelazia rhodesi*)
3. 東洋眼虫 (*Thelazia callipaeda*)
4. マンソン眼虫 (*Oxyspirura mansonii*)
5. 馬円虫 (*Strongylus equinus*)

別冊 C
図 55

問56 犬、ポメラニアン、雌、12歳齢。元気消失と食欲不振を主訴に来院。〔図56〕は血液化学検査結果である。鑑別診断に加えるべき疾患として適当なのはどれか。

- a 慢性腎不全
- b 原発性上皮小体機能亢進症
- c 肛門嚢アポクリン腺癌
- d 甲状腺機能低下症
- e 糖尿病

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

別冊 C
図 56

問57 病原体が〔図 57〕の感染様式をもつ人獣共通感染症はどれか。

1. 発疹チフス
2. 発疹熱
3. 日本紅斑熱
4. オウム病
5. エールリヒア症

別冊 C

図 57

問58 〔図 58〕は日本と世界における年次別のある疾患の発生頭数を示している。
この疾患はどれか。

1. 小反芻獣疫
2. 豚丹毒
3. 牛疫
4. 口蹄疫
5. 牛海綿状脳症

別冊 C

図 58

問59 馬、サラブレッド種、雌、年齢不明。〔図 59 - A〕は顔面部の外貌、〔図 59 - B〕は上顎骨の骨生検組織の病理組織像（HE 染色）である。本疾患の原因として最も疑われるのはどれか。

1. 上皮小体主細胞の過形成
2. 甲状腺腫
3. 副腎皮質過形成
4. 甲状腺髄様癌（C 細胞癌）
5. 慢性肺疾患

別冊 C
図 59 - A, B

問60 犬、バーニーズ・マウンテン・ドッグ、雄、11 か月齢。2 か月前から右後肢を跛行しており、鎮痛薬を使用しても良化しないとのことで来院。触診で股関節に痛みが認められた。〔図 60 - A, B〕は股関節の X 線腹背像（A：伸展位、B：屈曲位）である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 大腿骨頭壊死症
2. 股関節形成不全
3. 股関節脱臼
4. 大腿骨頭成長板骨折
5. 重度変形性関節症

別冊 C
図 60 - A, B

